

# 「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

アメリカ オースチン補習授業校

# 目次

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯
- ④ 実際の取り組み
- ⑤ 苦勞した（している）こと
- ⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
- ⑦ 今後への課題

# ① 学校の規模や子どもたちの実態

- 本校は、134名の児童が学ぶテキサス州登録済非営利法人。
- 幼稚部32名、小学部85名、中学部17名で、  
国語は必須科目。算数と数学は選択で93名が受講。
- オースティン独立学区の中学校の校舎を借りて、  
毎週土曜日の午前中授業をしている。
- 算数・数学は8時～8時50分の1コマ、  
国語は9時～11時45分の45分×3コマ。

## ② 現地の新型コロナウイルス事情

- テキサス州オースティンでは、3月13日にコロナ患者3名が確認され、3月17日には、テイクアウトを除くすべてのレストランが休業。
- 3月23日に、確認された患者は100人に達し、24日「自宅待機令」が出された。
- オースティン独立学区は3月13日(金)に臨時休業するとともに、校舎の外部への貸し出しを禁止した。

### ③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯

- 3月13日のオースティン独立学区の決定（外部団体への校舎貸出禁止）により校舎が使えなくなり、3月14日は臨時休校となった。
- 当初4月4日までの予定だったオースティン独立学区の休業は延長を繰り返し、ついにテキサス州は今年度いっぱい(5月末まで)の学校休業を発表。
- 予定されていた補習校の卒業式・終業式、入学式・始業式は全て中止となった。

## ④ 実際の取り組み

- 3月14日、21日、28日の土曜日は、「毎週のお便り」で課題を出していた。
- 4月も土曜日にオンラインで講師が待機して事前に出した課題についての質問を受け付ける形式を思い描いていたが、学校閉鎖が長期化することを受け、オンラインで授業をする方向へ切り替わった。
- 3月21日に運営委員会に初めて Google Meet を使って参加した際、マニュアルを読んで理解するのでは不十分であることを痛感し、運営委員会や IT 担当者の協力を得て、3月28日に講師の Google Meet 講習会を実施。
- 4月4日は、児童生徒が無事に Google Meet に入れることを主目的に、初授業をした。

- 小中学部：算数 9時～9時45分  
国語 10時～10時45分、休憩10分、11時～11時45分。
- 幼稚部：年中 10時半から11時半。 年長 9時半から10時半。
  - 各ご家庭に、金曜日にビデオを送付。歌、手遊び、お製作、ひらがな・カタカナの学習など多彩な内容で、幼稚部講師が毎週作成。
  - 土曜日は、ビデオ学習の復習や質問タイム、音読確認、月に一度のお誕生日会などをする。
- 毎週土曜日の授業後、午後12時から、Google Meet 講師会で講師が交流。校長や運営委員長、IT 担当者も出席してくださるので、その場で相談にのってもらったり、運営委員会に持ち帰ってもらったりしている。運営委員会からの連絡報告事項も伝えられる。
- 運営委員会は毎週土曜日午後1時から Google Meet で会議をしており、校長や運営委員長は講師会后そちらに移動するので、問題点や提案はすぐに話し合ってもらうことができる。

- ⑤ 苦勞した（している）こと
- ⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
- ⑦ 今後への課題

- IT 問題 1：一番の問題は、兄弟の多いご家庭のコンピューター不足。  
現地校で貸し出されるタブレットなどのデバイスには制限が掛かっていることが多く、使用できなかった。
- 対策：あるご家庭はコンピューターを一台購入され、現在は全員授業を受けることができている。

- IT 問題 2 : 初めの授業では、児童生徒名と画面に表示される名前が異なり混乱。保護者のアカウントで入室していたことによるもの。国際結婚家庭のお子さんの日本人のお母さんが旧姓で作っているアカウントの場合、苗字からも想像がつかない。

新年度ということもあり、講師は児童生徒の顔と名前が一致していなかったため、出欠席で時間をとられた。

- 対策 : 運営委員会が保護者に「名簿に載っている子供の氏名が表示されるよう、新たなアカウントを作るか、名前を切り替えて入室すること」を呼びかけ、保護者は協力してくれた。たまたま、保護者が直前まで使用していたアカウントから入室してしまう児童もいるが、さすがに一か月たった今、混乱は少なくなっている。

- IT 問題 3 : せっかく作ったビデオが本番で動かなくなってしまったという報告を受けた。  
また、ある講師はパワーポイントが生徒に見えておらず、先生が何かしながら一人でしゃべっている状態だったという。
- 対策 : 講師が「IT 担当」と名付けた保護者に相談する。

- 授業関連の問題 1 : コンピューターを通してしているため、見せている側の講師と見ている側の児童生徒との時間差が生じ、発話が重なってしまうことが多いのが悩み。
- 対策 : 中学部の生徒には、それを理由にゆっくり読むことや意見を言ったあと間をとることを 伝え、それはよい習慣になりつつある。今まで手を挙げずに発言をしていた生徒が、周りの様子を見てから発言する気配りを見せるようになった。

- 授業関連の問題 2 : 手を挙げて発言したい子供（特に低学年）を全員あててあげることができないのは悲しい。マイクをオンにして発言するが、それに時間がかかる。生徒に教科書を読ませる代わりに講師が範読したりすることが多くなっている。
- 対策：少しでも子供たちの声を聞くために、指名することが多い。

- 授業関連の問題 3 : プレゼンテーションを重視するあまり、児童生徒と画面越しに顔を合わせる時間が減ってしまうこともあった。授業がただのプレゼンに陥ってしまう危険性を感じた。
- 授業関連の問題 4 : 児童生徒同士の意見交換が難しい。
  - 対策 : 教える単元の順序を変えて、ディスカッションや話し合いは、二学期以降（可能ならば）教室授業で行う予定にするなどの工夫をしている。

- 授業関連の問題 5 : 単元テスト、漢字テストの実施の仕方。
  - 各クラスの学齢や実態に沿って各担任が判断。
  - 下記はその方法。複数併用している学年もある。
- 対策 1 : 解答を翌週配り自己採点。
- 対策 2 : 本人が実施後、保護者が担任に連絡、解答をメールする。  
自己採点。
- 対策 3 : テストと解答を一緒に渡し、保護者に採点してもらう。
- 対策 4 : 答案をスキャンして送ってもらい担任が採点。
- 対策 5 : 記録用紙を渡し、自己管理してもらう。
- 対策 6 : 前期の通知表はつけない。(まだ通知していない。)

- 授業関連の問題 6 : 作文課題の添削、採点の仕方。
  - 対策 1 : 担任に提出してもらい、添削して返却。
  - 対策 2 : Google Classroom に提出。添削、採点して返却。  
清書も Google Classroom に提出。
- 授業関連の問題 7 : 幼稚部では集中力が続かないためオンライン授業では難しいお子さんがいる。
  - 対策 : ビデオなら、各ご家庭でお子さんに合わせて見ることができる。
- 授業関連の問題 8 : 全員で歌を歌ったり、斉読したりするのは、雑音が大きくなるので要注意。

- 授業関連で気づいた利点1：クラスのコントロールがしやすいと感じる。  
講師と子供、子供と子供が直接顔を合わせていないため、常に手を挙げて  
いる（発言したがる）児童以外を指名しやすい。
- 授業関連で気づいた利点2：授業を受けている態度がよく見えて把握しやすい。
- 授業関連で気づいた利点3：幼稚部や低学年では、保護者が横についている  
ことが多いため、お子さんの態度が非常に良い。授業がいつもより進む  
という声も聞かれる。
- 授業関連で気づいた利点4：その週習った文字のつく食べ物やおもちゃを  
持ってきてもらうなど、オンラインでしかできない課題も出せる。
- 授業関連で気づいた利点5：借り校舎で毎週準備していたように、授業前に  
大きなものを運んだり動かしたりする必要がなくて楽になった。

- コミュニケーション：小学1年生では、事前に「はい」「いいえ」カードを用意してきたお子さんが、よい例を示してくれた。第2週目からは多くの児童が利用している。
- コミュニケーション：教室での授業ではあまり意見を言わなかった生徒が、オンラインでは積極的に発言したり音読したり、という現象も起きている。
- コミュニケーション：休み時間に生徒たちのバイオリン・ビオラ演奏が始まったりと、教室では味わえなかった楽しみをもたらすこともできた。
- コミュニケーション：「自分の好きなもの・大事なもの」の発表で、ペットや楽器など、家にいるから見せられるものがあった。普段見られない顔が見られた。
- コミュニケーション：休み時間が15分あるため、友達とのおしゃべりの場にするように呼び掛けている。